

## 「心のスイッチ」を入れるのは自分

今年の夏休みも、宿題をしたり、読書をしたりできるように図書室を開放しました。朝から、たくさんの皆さんが来て、夏休みの課題に取り組んだり、昼からのプールの約束をしたりと銘々有意義に時間を使っていました。また、昼からのプールにも毎日たくさんの皆さんが参加しました。

さて、少し前から塾のコマーシャルで「やる気スイッチ、君のはどこにあるのだろう？」というキャッチフレーズをよく目にしています。「やる気になったらできるんだけどなあ」「いつになったらやる気が出るんだろうなあ」わたしも含めだれもが経験したことがあるのではないのでしょうか。このことに関する話です。東井義雄（とういよしお）氏（教育者）の著書「自分育てるのは自分」から1編の詩を紹介したいと思います。

### 「心のスイッチ」

人間の目は ふしぎな目  
見ようという心がなかったら 見ているも見えない  
人間の耳は ふしぎな耳  
聞こうという心がなかったら 聞いているも 聞こえない  
頭もそうだ  
はじめからよい頭 わるい頭の区別があるのでは ないようだ  
「よし やるぞ！」と心のスイッチがはいると  
頭も すばらしい はたらきを しはじめる  
心のスイッチが 人間を  
つまらなくもするし すばらしくもしていく  
電灯のスイッチが  
家の中を明るくもし 暗くもするように



遠井義雄氏は、この著書の中で「人間は五千通りの可能性を持って生まれてくる。その可能性の中から、どんな自分を取り出していくか。皆さん一人一人がその責任者なんです。世界でただ一人の私を、どんな私に仕上げていくか。その責任者が私であり、皆さん一人一人なんです。」と書いています。長い休みでエネルギーを蓄えた今こ

そ「よしやるぞ！」という気持ちを大切に、いくつもの可能性を持っている子どもたちが自分の能力を眠らせたままにせず、「心のスイッチ」を入れて自分の能力を伸ばし、夢・目標を達成してほしいと願っています。

校長 土井 安博